

## 犬の飼育数減「尋常でない」 目立つ50代の減り幅

12/22(金) 19:20配信

朝日新聞  
DIGITAL



柴犬（しばいぬ、左）とスコ  
ティッシュフォールド=大阪市都  
島区、滝沢美穂子撮影

犬の飼育数が3年連続で減少し、猫に初めて追い抜かれた事態を前に、ペットフード協会の石山恒会長は「この減り方は尋常ではない」と話す。

犬の飼育数は7年前から約300万匹減少し、4分の3にまで落ち込んでいる。減少傾向を食い止めるには、1歳未満の子犬が7%以上を占める必要があると協会はみるが、今年の結果では2・9%に過ぎない。

協会が注目するのは、50代の飼育率の低下。5年前は2割が犬を飼っていたが、今年は4・6%減の15・4%で、全年代の中で最も減り幅が大きい。犬の平均寿命が14・19歳まで伸びている中で、高齢になり飼育が難しくなった時への対応から二の足を踏むケースもあるとみられる。

ペットフードの業界団体としては、飼育数の減少は売り上げに直結するだけに、「どうしたら増えるか協議しているが決定打はない」という。犬と暮らすことが健康改善につながるといった海外の研究を引き合いに、アピールしていきたいという。（机美鈴）

朝日新聞社